

# 「第6回協議会」での意見概要

【第6回協議会の概要】 開催日：平成18年3月9日(木)  
協議の骨子と決定事項 午前9:30～11時

資料

1. 有効活用に向けたアクションプラン(案)について
2. 今後の展開について

参考資料

・設立趣旨等

有効活用方策について

協議会を解散し、将来像とアクションプランを基に、  
今後はそれぞれの立場から具体の展開を進める。

## 周辺有効活用について

区分	意見概要	事務局等による回答等
百間川の水質について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このまま放置すると農業用水に影響があるとは言い切れない。浄化装置の効果や下水道整備も進み水質もよくなったのでは。</li> <li>・児島湾の水質とどれだけ違うのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質浄化施設の効果の検討・分析は行っていないが、まだまだ全体的に改善されたという状況にはない。今後継続的に水質調査を行っていきたい。</li> <li>・吉井川、旭川、児島湾に比べて2、3倍は悪い状況である。</li> </ul>
自然環境の保全について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、生態系や植生など、大切なものが欠けつつあるのでは。</li> <li>・自然を守り、風水害から地域を守りつつ楽しめる川になれば思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都荒川下流では、地域の方々や自治体、河川管理者が協議会にて、植栽種選定の手引を作成した事例もある。</li> <li>・河口水門周辺でも、今後、地域の方々といろいろなアイデアやルールづくりを進める必要がある。</li> </ul>
ゾーニングと将来像について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人が集まるのはよいが、駐車場確保が必要では。</li> <li>・下流の高水敷には樹木を植えて支障はないのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来像は、地域の皆さんと一緒に河口水門周辺の共通の方向性として共に認識しておくべき事と考えている。</li> <li>・下流の高水敷は狭く、基準等もあるが、今後、散策ゾーンの位置づけを踏まえ地域の皆さんと一緒に考えたい。</li> </ul>
アクションプランについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、成果の評価を、一般市民にわかりやすく公表する必要がある。</li> <li>・今後は必要に応じて三者を含めた会合などで検討するのか。</li> <li>・学校や地域も含めて一緒になって楽しみながら勉強ができる機会をつくっていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会としては解散するが、広報紙やホームページ等により、個別の取り組みのフォローアップを進めたい。</li> <li>・例えば、河口水門工事に関係する水防拠点や周辺道路整備などは必要に応じて機会を設けることも考えられる。</li> <li>・地元の方々にも将来像の実現に向け、既に行われている愛護活動等の輪をより広げていただければと思う。</li> <li>・ゾーニングや将来像は、まだ協議会だよりなどで、地域の方にお知らせしているだけであり、今後は、利活用や取り組みの必要性など、広く一般の方々にも知っていただくことがスタートになると考える。</li> </ul>

## 塩水導入について

区分	意見概要	事務局等による回答等
今後の展開について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用水期には水の分配への配慮が要るが、旭川の清水を百間川へ導入すれば、百間川全体がきれいになるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊水期に限り、分流する量を増やすという考え方はあるが、今後よく検討する必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧樋門の時代は、塩水がいくらか入っていた。昔のように塩水が入っても、塩害は起きないのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔は周辺水路からの取水で、今は揚水ポンプにより百間川の水を使っている。対策なしの塩水導入は問題である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩水導入だけでなく、空気を入れるなどで少しは水がきれいになるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘドロ状になった河底に対して、自浄作用が働くような十分な酸素を送り込むのは難しい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潮の干満が大きい混合による自然の汽水域と、干満の小さい塩水くさびにより層を成す汽水域は違う。これを区別し対策をすれば、余り心配はないと思う。</li> <li>・塩害の状態や範囲などを調べた上での対策が必要。</li> <li>・河川内で還元状態が進むと、生態系も変わり、植生も枯れることもある。特に樋門近くなど汚れの沈殿しやすい所から進むであろう。</li> <li>・メリットの1つは、塩水を導入することで水の入れ替わり時間が短くなる。しかし、シミュレーションをやらないと明確な効果はわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分モニターし、結果が地域の皆さんにもわかるように進めて頂きたい。</li> <li>・漁業者と農業者の立場は違うが、現代の科学的な水準を集め、河口水門周辺がよくなるために、お互いの調和点は必ず探していけると思う。調和をとって進めていただくことが一番大事なことでないかと思う。</li> </ul>

## これまでの協議会を振り返って(会長より総括)

- ・河口水門の増築を契機とした、この地域の活性化と周辺の有効活用方策の実現に向けて、今後は、具体的な取り組みを進める中で、地域住民、自治体と河川管理者が協働し、「川と人との係わり」に対し、各々がどのように認識するかが大切である。また、この地域をいかに、川を中心として文化性の高く、多くの人々が楽しめるようにしていくかが大事である。
- ・この協議会で、これまでにいただいた御意見を礎とし、将来像とアクションプランに沿って、多様な活動と活用の方策を模索していただきたい。